

たんYAI! かんYAI!

野球の根尾選手やフィギュアの紀平選手など 10代で活躍するたくさんの人たち！今後の成長が期待されますが、人生の転機はいつ訪れるかわかりません。そこで今回は、世界の偉人たちが10代のときに会った、悲喜こもごもをご紹介します！

13才：宮本武蔵→初めての決闘！

源頼朝→伊豆に流される…

三島由紀夫→初の短編小説を雑誌に発表！



14才：マリー・アントワネット→のちのルイ16世と結婚！

天草四郎時貞→島原の乱を指揮！

ジョン万次郎→漁に出て遭難…



15才：ピカソ→展覧会に初出品し入選！

16才：マリリン・モンロー→最初の結婚！

17才：ジャンヌ・ダルク→百年戦争でオルレアンを解放！

18才：山下清→放浪の旅に出る！

19才：中大兄皇子→「大化の改新」を断行！



『そのときあの人はいくつ？』池上彰ほか著 小学館より

トショブラ♥ ～外国語の学習におすすめの本～

甲賀市図書館には、日本語だけでなく英語など外国語でかかれた洋書も所蔵しています。洋書は、外国語を楽しく学習するのにおすすめです。『はらぺこあおむし』『ぐりとぐら』などの絵本から、『ハリー・ポッター』など読み応えのある長編小説まで、さまざまなレベルの資料がそろっています。多くの本は日本語版もあるので、日本語訳と見比べながら読み進めることができます。英語の他にも、ポルトガル語やスペイン語、韓国語、中国語でかかれた資料もあります。それぞれの図書館に「外国語資料コーナー」があるので、ぜひ一度利用してみてください。

発行：甲賀市図書館

水口図書館 : 63-7400 土山図書館 : 66-1056

甲賀図書館情報館 : 88-7246 甲南図書館交流館 : 86-1504

信楽図書館 : 82-0320

ホームページ : <http://lib.city.koka.lg.jp/>

Book guide for Young Adult

甲賀市図書館ヤングアダルト通信



vol.8

2018.Winter

Koka City Library

ヤングアダルト (Young Adult) とは、13歳から19歳の世代の人たちに対して使われている言葉で、「若いおとな」という意味です。甲賀市図書館ヤングアダルト通信『ホンマニ！』では、ヤングアダルト世代のあなたに、おすすめの本を紹介します。

古書に書かれた文字と

描かれる思い

この冬おすすめ
この1冊

『ビブリア古書堂の事件手帖

～栞子さんと奇妙な客人たち～』

三上 延／著 アスキー・メディアワークス



本好きだけど本が読めない体質の五浦大輔は、祖母の遺品の本の価値を確かめに古本屋「ビブリア古書堂」へ行く。店主の篠川栞子は若い美女で、極度の人見知り。初対面の人とは口もきけないほどだけど、本に関する知識はすごく、古書を見ればその内容や発行の経緯だけでなく、持っていた人物の謎や秘密を解き明かしたりする。大輔は入院している栞子に代わって店で働くことになったが…。

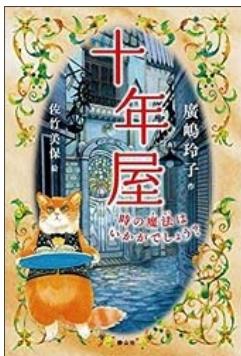
物語の中では実在の古い本や本の形態についての知識も書かれており、栞子がそれらを使って古書にまつわる事件や人間模様を解いていくさまは驚きと発見の連続です。

過去にテレビドラマ化され、最近では黒木華さん主演で映画化された、“古書と秘密”の物語。映像で見た人も原作を改めて読んでみてはいかがでしょうか。

●持っているのが苦しいほど大切なもの、ありますか？

『十年屋』

廣嶋 玲子／著 静山社



——どうしても捨てられないもの、持つてはいられないものを、自分の寿命1年分と引き換えに十年間おあずかりします。——

時の魔法を操る“十年屋”に導かれて、悩みを抱えた誰かが今日もその店の扉を開ける…。

「もの」自体にたいした価値はないけれど、かけがえない「想い」が詰まっていることってありますよね。

人気シリーズ連発の作家が贈るこの不思議な物語は、児童文学ではありますが、子ども時代を卒業した年代の人にこそ一番心にグッとくるのかもしれません。

●平行線1° 動けば交差する だから私も一歩踏み出す

『愛×数学×短歌』

横山 明日希／編著 河出書房新社



高校の数学同好会に所属する男の子と、地方から転校してきた文芸部の女の子。自分にはない相手の魅力に惹かれ合うふたりの恋物語に合わせて、Twitter（ハッシュタグ「#愛と数学の短歌コンテスト」）で募集された、愛と数学をテーマにした短歌を紹介する短歌集。

数学が好きな人も、そうでない人も。短歌を知っている人も、よく知らない人も。恋愛に興味がある人も、ない人も。まだ、どれもよく分からない…という人も。

勉強の合間に、ちょっとひと息つくときにぴったりの一冊です。

●こわい。けど、負けない。

『ぼくがスカートをはく日』 エイミ・ポロンスキー／著

西田 佳子／訳 学研プラス



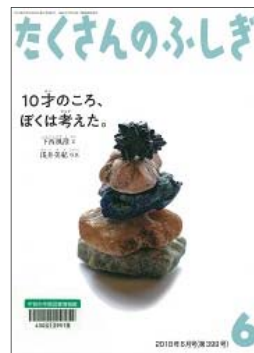
グレイソン、12歳。鏡に映るのはスカート姿。けれど、現実にはTシャツに短パンを着た男の子。心と体の性別に違和感を覚えながら誰にも話せずにいたある日、彼は劇のオーディションを受ける。立候補したのは女神の役。からかわれても、“自分らしく”生きたいと一歩を踏み出したが…。

人とは違う悩みに寄り添うことは本当に難しいこと。それが自分でも、他の人でも。あなたならどうしますか？想像しながら読んでみてください。

●花が枯れて、その花のお墓をつくる人はいるだろうか？

『10才のころ、ぼくは考えた。』(『たくさんのふしぎ』2018年6月号)

下西 風澄／著 福音館書店



著者は10才の頃、お気に入りの石を見るのが好きだった。ある日、コレクションボックスの中から取り出し、それを眺めながら考えた。「僕は石が好きだけど、石は僕を好きだろうか。」もちろん石は考えたり感じたりしない。なぜなら石には命がないから。命がないということは、石は死んでいるのだろうか？死んだ石ならお墓に入れるだろうか？飼っていた文鳥が死んだ時、著者は庭に埋め墓石代わりに大きな石を置いた。でも石なら？花が枯れたらどうだろう。

瑞々しい写真と共に綴られる言葉。命と生きることについて考えてみませんか。

●店員に撮ってもらった写真の著作権は店員にある！？

『正しいコピーのすすめ』

宮武 久佳／著 岩波書店



皆さんはグループでレストランを利用して、お店の人に写真を撮ってもらった事がありますか？

自分のスマホを店員に渡し、グループの写真を撮ってもらいSNSにアップする。よくある光景ですが、その行為、著作権法違反になるかもしれません。

スマホが普及し、息をするように写真を撮り、画像をコピーする時代になりました。この本では、現代のSNS社会の事例なども取り入れ、知られていない身近な著作権ルールを分かりやすく解説してるのでおすすめです。

●刑務所は福祉施設！？

『刑務所しか居場所がない人たち』 山本 譲司／著 大月書店



刑務所にいる人の2割は知的障がいのある可能性が高いそうです。よって著者いわく、刑務所は「世間から排除され続けた障がい者が最後に行きつく福祉施設」。いじめや虐待、貧困によって社会から孤立した存在になりがちな彼らは、障がいの特性や貧しさから、神社のお賽銭を取ったり、おにぎりを盗んだりといった罪を犯してしまうことがあります。そして、同じような罪で再び刑務所に戻ってくる人が多いそうです。なぜなのでしょう？その理由と背景がわかりやすく書かれています。